

中国語の介詞〈在〉について

馬 建 設

On the Prepositions of Chinese Lang

Jianse Ma

It is very difficult to master Chinese prepositions for Japanese in the study of Chinese. The use of Chinese prepositions is irregular depending on the context.

This paper is a detailed survey and research of the use of Chinese prepositions.

1. はじめに

日本人が中国語を学ぶに当って非常に難しい点は中国語の介詞を理解することである。この中国語の介詞はその使用が場合によって変化する。たとえば介詞の「在」は動詞の前に使用されたり、逆に動詞の後に使用されることもある。またときには動詞の後に必ず「着」「了」「过」などの助詞を伴うこともある。

このように介詞「在」はなぜ自由自在に動詞の前、後にくるのであろうか。また動詞の前にくる場合と動詞の後にくる場合とでは、意味上どんな違いがあるのだろうか。これらの問題をはっきりさせるために本稿の調査、研究を始めたのである。

本稿の調査を始める前に大内田三郎氏の論文（参考文献の5, 6）と沢田啓二氏の論文（参考文献の7）を参考にして拙論をすすめることができ、両氏に深甚の謝意を表するものである。

2. 介詞の定義

香坂順一氏は『現代中国語文法』の中で、介詞について次のように述べられている。「名詞、代詞などの前に用いられて、それと組合わさって動作、行為の方向、対象、場所、時間などをあらわす単語を介詞という。」とされ、また介詞の特点について次のようにまとめられている。すなわち

1. 単独では用いられない。
2. かさねることができない。
3. 時態助詞「着」「了」「过」および方向動詞「来」「去」「上来」「下去」などをつけることができない。（「为了」「为着」のように、それ自体に「了」「着」があるものがあるが、この「了」「着」はなんら意味をつけくわえていないし、これらは造語成分的なものであって、前

の成分とあわさって一つの単語をつくっているものである)。

「到」「在」を用いた介詞構造はよく補語にもなる。「自」「往」「向」「于」などの介詞構造も補語となるときがある。

また三野昭一氏は『中国語文法の基礎』の中で介詞を「前置詞」と名づけて、つぎのように述べられている。「前置詞とは名詞、代名詞、数量詞などのまえにおかれて、これらのことばと、他のことば(動詞、形容詞)との関係を示すことばである。」同氏も「「到」「在」などを用いた前置詞構造はよく補語としても使われる。」とも述べられている。

以上の両氏とも「到」「在」を用いた介詞構造はよく補語になることがあると述べられているが、いったいどういう場合に連用修飾語に、どういう場合には補語になるのであろうか。

3. 「在」の介詞構造についての考察

1. 時間を表わす「在」を用いた介詞構造

「在」は単独では用いられないので、必ず名詞、代名詞、時間名詞、数量詞などと組合わさって使用される。時間を表わす「在」の介詞構造は時間名詞、時間の数量詞と介詞の「在」を組合わせて出来たものである。文の中では時間を表わす。たとえば、

- ・在节日那天 / 節句の日に
- ・在小学五年级 / 小学五年の時
- ・在风暴来临之前 / 嵐がくる前
- ・在战争年代里 / 戦争の時代に
- ・在1987年 / 1987年に

このような介詞構造は文の中で通常動詞の前、或いは文全体の前におかれ、連用修飾語の働きをするのである。たとえば、

- ・在双方还没把打手约齐, 已有人出面调停了。
- ・在这种时候, 你还想到休息。
- ・在这一天, 全上海人的记忆中就失去了“欢笑”的名词。
- ・就在这个时候, 一个五十多岁头发灰白的中国人在她们眼前出现了。

時間名詞と時間の数量詞と「在」を組合わせて構成された介詞構造はときには動詞の後に置かれて文の補語になることもある。しかし以下の動詞の場合に限られる。すなわち、「死, 生, 定, 处, 放, 改, 排, 出生, 誕生, 发生, 出现, 发现, 布置, 安排, 确定, 固定」などの動詞の場合である。たとえば、

- ・故事[・]发生[・]在1938年。/ 1938年のことである。
- ・运动会[・]安排[・]在4月份。/ 運動会は4月に行うように組まれた。
- ・参观[・]改[・]在星期四。/ 見学は木曜日に変更した。
- ・时间[・]定[・]在后天上午。/ 時間は明後日の午前とする。

この「在」の介詞構造は他動詞の場合、その動詞の前にしか置けない。とくに他動詞のあとに

目的語がついている場合、なおさら不可能である。たとえば「在节日那天，举行各种不同的庆祝活动」という文は「举行在节日那天各种不同的庆祝活动」と言い改められないし、また「举行各种不同的庆祝活动在节日那天」とも言えないのである。もちろん特別の場合では「举行各种不同的庆祝活动。在节日那天」という可能性があるが、それは2つの文に分けて表わすので検討外とする。要するに文の中の動詞が他動詞であり、或いは文の中に目的語がついているならば、時間を表わす「在」の介詞構造は動詞の前、或いは文全体の前に置かれ、文の連用修飾語になる。たとえば、

- ・单是在今天，就不知丢了多少。
- ・难道他们不会在这一切还没有到来之前把我们捉去吗？
- ・她不願意在这时候离开她的亭子間到下面去。

2. 動作の発生する場所、或いは事物の存在する場所を表わす「在」の介詞構造

この種の介詞構造は場所名詞と「在」を組合わせてできたのがほとんどである。たとえば、

- ・魯迅在上海領導革命文艺运动。
- ・儿子在工厂工作，女儿还在中学读书。
- ・他就在霞飞路金神父路口笑报。
- ・在任何地方，他都得不到安宁。

また多数の場合、「在+場所名詞+方位名詞」の形で表れることがある。この時用いられる方位名詞は通常「上，下，里，前，后，中」などである。

- ・我們今天下午七点鐘在你家里开会。
- ・黄包車載着人和行李拼命在人海中找路。
- ・在过街楼下，一些妇人和小孩正攤开被头睡在水門汀地上。
- ・他在方桌前站了一会儿。
- ・在蛇身上画起脚来。

もしその場所名詞が本来具体的、細かい場所の名詞ならば、方位名詞がつかないこともある。たとえば、

- ・父亲又在二楼喚她了。
- ・一个巨大的声音突然在她耳边震响起来。
- ・然而不管这一切，在这附近有的还是活动与生命。
- ・我把在杭州买的礼物一一送給了父母和兄嫂。
- ・这时魯迅已經回国，在紹興教书。

場所を表わす「在」の介詞構造は動詞の前、或いは文全体の前に置かれ、連用修飾語になることがあるし、動詞の後に置かれて、文の補語になることもある。

- ・火焰在天空中画出了浓黑的山影。
- ・老先生在椅子上坐了。

以上の 2 例では「在」の介詞構造が動詞の前に置かれ連用修飾語の働きをする。以下の例を見よう。

- ・ 芳建方昏沉沉地走在这黑夜的路上。
- ・ 我们的小卓玛跟在老張身边低着头。
- ・ 还有几輛炸毀的老虎車和黃包車躺在路邊。
- ・ 文淑擠在人群中……。

以上の例文では「在」の介詞構造が動詞の後に行き、補語になるが、もっと詳細に分析すると、文の中の動詞が他動詞、或いは文の中に目的語がある場合、場所を表わす「在」の介詞構造は動詞の前にしか置かれない。たとえば、

- ・ 其实学堂没有开学，你在家溫習功課也不是一樣？
- ・ 她不再在天空里我找尋飛機。
- ・ 你在醫院里也吃冰嗎？
- ・ 在她的耳邊時時響着令人心緊的痛苦的叫喊。

他動詞の場合、「在」の介詞構造が動詞の後に行くこともある。ただしその場合「把……」という構造によって目的語を動詞の前に持って来させたり、特別語順で意味上の目的語を動詞の前に持って来させたりするほかはない。たとえば、

- ・ 他把手压在子成的肩膊上，关心地問道。
- ・ 她把臉压在枕头上，开始哭起来。
- ・ 把身子靠在門邊那个五斗橱上。
- ・ 她们的衣服都放在草地上。
- ・ 焦虑的顏色露在她的脸上。
- ・ 憤怒出現在這兩張臉上，完全掩盖了先前的笑容。

文の中の動詞が自動詞である場合、場所を表わす「在」の介詞構造は動詞の前にも後にも置かれる。

- ・ 周扒皮已經被打得半死，躺在地上爬不起来。
- ・ 明天他便会睡在另一个地方。
- ・ 是我的茶館，我活在这儿，死在这儿。
- ・ 她在木栏前站住了。
- ・ 她的兩顆亮眼珠不停地在这兩個人臉上輪流转动。

ただし単音節自動詞の場合、「在」の介詞構造がその動詞の前に行くとき、通常動詞の直後に附属成分を伴う。たとえば、「着」「了」「过」「起来」「下来」などの助詞である。いくつかの例文を見よう。

- ・ 只是默々地在他的旁边走着。
- ・ 說着就在空着的椅子上坐下。
- ・ 父亲李道河在川北广元当过知县。

・他又在床沿上坐下来。

2音節以上の自動詞の場合ではそういう制限がないようである。

・電車爬虫似地在光滑的柏油道上蠕动。

・大熊猫圓々的身子在地上爬行。

仿佛是星儿在太空中闪烁，仿佛是船儿在水面上摇荡。

また自動詞の場合、その動詞の後に他の附属成分がくっついてるとき、「在」の介詞構造が動詞の前にしか置かれない。たとえば「在她家里住宿一夜」の場合、「住宿」という自動詞の後に「一夜」という補語がついているため、「住宿一夜在她家里」とは言えないし、「住宿在她家里一夜」とも言えにくいようである。

他動詞の場合、「在」の介詞構造はその動詞の前にしか置かれないが、単音節の他動詞の場合は単音節自動詞の場合と同様に、「在」の介詞構造が動詞の前に表れるとき、動詞の直後に「着」「了」「过」などの助詞を伴う。

・她拿起墨笔在那張已經用鉛笔画好了行格的白紙上专心地写着。

・过了些日子，他在山前盖了一間草屋，又在草屋旁边开了一块地，种了一些庄稼。

・眼看就有一場爭吵在下面等着她。

以上の分析は動詞の形式に注目したものである。

次に意味的に考察をすすめる。

まず場所を表わす「在」の介詞構造は動詞の前に置かれる場合、「動的」の動作が起ることを強調すると思われる。ようするに動作の起る場所を指すのである。たとえば「笑渦在她的臉頰上出現了」の場合、作者が一番表現したいのは「出現」であろう。すなわち「でてくる」ということを表現して、それから「どこで」ということを表わしていると思う。これに対して、その介詞構造が動詞の後に置かれる場合、動作の達する目的地を表現するのである。その文では「静的」な状態を強調するものであろう。もし前の例文を「笑渦出現在她的臉頰上了」と言い換えれば、文のニュアンスが違ってくる。この文では作者が表現したいのは動作の完結した場所かも知れない。さらに同じような例を見よう。

・于是电车在中华书局門前停了。

・在那个人的身边竖着一块硬紙板。

・說真的，咱们的人在我这里住着。

以上の例文ではいずれも「在」の介詞構造が動詞の前に置かれている。どれも「動作の起る」場所を指し、「動的」状態を強調している。反対の例を見よう。

・母亲坐在对面靠牆的方桌旁边。

・我就住在这条街。

・偷々地跟在他的后面。

以上の文をみるといずれも動作の完結した場所を意味し、「静的」な場面を強調している。

また単語のまったく同じ文で、「在」の構造の位置を換えれば意味の全然違うことがある。たと

例えば「在地上跳」の意味は地面のうえでとびはねる。「跳」の動作は地上で行われるのであるが、「跳在地上」というと、その意味は地上にとびはねる。ほかの場所から地面にとびおりることになる。

このように「在」の介詞構造が文の中で位置が違うと意味もまたニュアンスも非常に違うので、使用上注意すべきである。

3. 範囲、条件を表わす「在」の介詞構造

この種の介詞構造は「在……上（中、下、前、后）など」の形で表れるのがほとんどであり、通常動詞の前、或いは文全体の前に置かれる。たとえば、

- ・ 汉字在中国历史上有过伟大的功績。
- ・ 象一朵美丽的花儿，在阳光下开放。
- ・ 他在学习上很努力。
- ・ 在10月革命的影响下，1919年爆发了伟大的五・四运动。

この種の介詞構造はときには動詞の後に置かれることもある。ただしそれは「控制」「限制」「圧縮」「保持」などの動詞の場合のみである。

4. ま と め

以上の調査と分析を通じ次のことがまとめられる。

1. 介詞「在」は文の中で、名詞、時間名詞、時間の数量詞、場所名詞、方位各詞などと組み合わせることができる。「在」の介詞構造として使われる。「在」の介詞構造は時間、場所、範囲、条件を表わすことができる。

2. 時間を表わす「在」の介詞構造は通常動詞或いは文全体の前に置かれ、文の中で連用修飾語の働きをする。少数の動詞の後に置かれる可能性もある。それは以下の動詞の場合に限られる。「生、死、定、处、改、放、排、出生、誕生、发生、出現、发现、布置、安排、确定、固定など」

3. 場所を表わす「在」の介詞構造は他動詞の場合、とくに文の中に目的語がある場合、動詞の前にしか置かれない。しかし他動詞の場合でも「把……」という構造とか特別語順とかによって意味上の目的語を動詞の前に持って行ったとき、「在」の構造が動詞の後に置かれる。自動詞の場合、それは動詞の前、後に置かれるが、意味上多少違いがある。単音節の動詞の前に場所を表わす「在」の介詞構造が表れると、その動詞の直後に通常「着」「了」「过」などの附属成分が必要になる。2音節以上の動詞にはこのような制限がない。

4. 場所を表わす「在」の介詞構造が動詞の前に置かれる場合、「動作の起る」場所を指す。このとき「動的」動作状態を強調すると思われる。動詞の後に置かれる場合、それは動作の達する場所或いは動作の完結結果のとどまる場所を指し、文としては「静的」感じが強そうである。

5. 範囲、条件を表わす「在」の構造は通常動詞の前に置かれるが、少数の動詞の後にも置かれる。

参 考 文 献

- 1) 『現代漢語八百詞』 呂淑湘 商務印書館
- 2) 『現代中国語文法』 香坂順一 光生館
- 3) 『中国語文法の基礎』 三野昭一 三修社
- 4) 『現代漢語詞典』 中国社会科学院語言研究所詞典編輯室 商務印書館
- 5) 「場所を示す〈在〉について——漢語課本の文法体系を中心にして」 大内田三郎 中国語学 178 (1968年3月)
- 6) 「補語の〈在〉について」 大内田三郎 中国語学 155 (1965年11月)
- 7) 「“在”小考——共起する成分との関連から——」 沢田啓二 中国語学・文学論集 (1983年12月)